

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ぽばんはうすさくら筑後大川教室

公表日 令和8年 3月 20日

利用児童数 令和8年 2月 20日

回収数 16人中/16人

| | | チェック項目 | | | | | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|--------------------------------------|----|--|----|---------------|-----|-------|--|---|
| | | | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | | |
| 環境・ 体制 整備 | 1 | こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。 | 16 | | | | 確保されていると思う | その場面場面で、運動教室に移動して活動を行っています。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切であると思いますか。 | 13 | 1 | | 2 | | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていませんか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。 | 16 | | | | | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていませんか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。 | 16 | | | | | |
| 適切 な 支 援 の 提 供 | 5 | こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。 | 14 | 2 | | | 専門の先生からの支援提供ができてい る。 | 引き続き、特性に応じた専門性のある支 援提供を行います。 |
| | 6 | 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。 | 14 | 2 | | | | |
| | 7 | こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。 | 13 | 1 | | 2 | | |
| | 8 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。 | 14 | 1 | | 1 | | |
| | 9 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。 | 14 | 1 | | 1 | | |
| | 10 | 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。 | 14 | 2 | | | | |
| | 11 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。 | 8 | 2 | | 4 | 交流があればいいと思います。 | 保育園からの見学訪問の機会がありますが、今後は子どもたちの交流の機会も設けたいと思います。 |
| 保 護 者 へ の 説 明 等 | 12 | 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。 | 16 | | | | | |
| | 13 | 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。 | 16 | | | | | |
| | 14 | 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。 | 7 | 3 | | 4 | | |
| | 15 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。 | 16 | | | | | |
| | 16 | 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。 | 15 | | | 1 | 定期的に面談が行われているので利用日 の過ごし方や個別支援についても情報共 有ができて有り難いです。 | 引き続き、定期的な面談やお迎え時での 情報共有を行います。 |
| | 17 | 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。 | 16 | | | | | |
| | 18 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。 | 7 | 4 | 1 | 4 | | |

| | | | | | | | | |
|---------|----|--|----|---|--|---|---------------------------------------|-----------------------------------|
| | 19 | 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 | 13 | | | 3 | | |
| | 20 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。 | 16 | | | | テロボでのメッセージのやり取りが密かな楽しみになっております。 | 連絡帳での情報以外の様子等のお知らせを行います。 |
| | 21 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。 | 14 | | | 2 | Instagram投稿・ストーリーをいつも楽しみに見えています。 | 子どもたちの、キラッと光る瞬間を発信していきます。 |
| | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。 | 16 | | | | | |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 12 | 1 | | 3 | 利用時間が短いため、避難訓練日に利用していません。 | 利用者の皆さんが参加されるように、日程調整を行います。 |
| | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。 | 9 | 1 | | 6 | 利用時間が短いため、避難訓練日に利用していません。 | 利用者の皆さんが参加されるように、日程調整を行います。 |
| | 25 | 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。 | 13 | 1 | | 2 | | |
| | 26 | 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。 | 13 | 2 | | 1 | | |
| 満足度 | 27 | 子どもは安心感をもって通所していますか。 | 14 | 2 | | | | |
| | 28 | 子どもは通所を楽しみにしていますか。 | 14 | 2 | | | いつも楽しそうに通っています。よく「今日、ごぼんの日？」とよく聞かれます。 | 今後も、「たのしい」「またきたい」と思ってもらえる支援を行います。 |
| | 29 | 事業所の支援に満足していますか。 | 15 | 1 | | | | |

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 | こぼんはうすさくら筑後大川教室 | | | | 公表日 | 令和8年3月20日 |
|---------|-----------------|--|-----|---------|--|--|
| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 8 | | パーティションなどでうまく区切っている。 | 物の配置や運動教室の活用なども考えて活動する。 |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 8 | | 協力しながら送迎している。子供たちにも協力をしてもらうなどの工夫。 | 声掛けや仕事を見える化して行う。 |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 7 | 1 | 個別で活動できるだけのスペースはあるので、落ち着かない時でも分けるなどしている。 | 朝礼・終礼時以外にも連絡ノートなどの工夫や目を通す環境の設定をもう少し工夫する。 |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 7 | 1 | 個別で活動できるだけのスペースはあるので、落ち着かない時でも分けるなどしている。 | パーティションや視覚的に区切るなどは、子どもによって取り組んでいく。 |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 6 | 2 | 活動スペースのすぐ隣に部屋があるので、いつでも使える環境にある。 | 物入れ的な時があるため、物を少なくしていく |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。 | 3 | 5 | | 非常勤の方も知れるようなツールの活用。 |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 6 | 2 | 評価表を職員全員に周知して検討している。 | 把握できる場所を伝えたり、ネット関係が苦手な保護者にも伝えられるような工夫をする。 |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 6 | 2 | すぐに相談できる状況を設定している。業務改善については、職員全員に周知、意見を反映した後、改善につなげている。 | 上司だけでなく、職員同士でもコミュニケーションを増やすなどして機会を増やしていく。 |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 4 | 4 | 管理者と相談するなどしている。 | 連絡の頻度をもう少し上げてさらなる業務改善につなげる。 |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 7 | 1 | 月に何回するなど設定している。その日、参加できなかった職員でも、個別に受けれる環境を設定している。 | 日にちを事前に設定して参加しやすくしたり調整しやすくする。 |
| 適切な支援の提 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 7 | 1 | 担当を中心に、職員の意見を取り入れて作成、職員がいつでも把握できる場所に掲示している。 | 作成する期間など明確にしていく。担当を月事に交替するなどの対策をする。 |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。 | 8 | | しっかりアセスメントを行い、ファイリングをして一括でまとめている。現場職員にも情報を聞き取り作成している。 | |
| | 13 | 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 7 | 1 | 全ての職員に聞き取り情報共有を行い、検討している。現場職員の意見で修正を加えることもある。 | 担当者を決めて、より高い意識で子どもの計画ができるようにしながら質を高めていく。 |
| | 14 | 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 7 | 1 | 職員は、いつでも見れるようにファイルも所定のところに管理している。都度、共有をしている。 | どの職員にもわかりやすく支援のポイントがわかるツールやシステムの活用。 |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 7 | 1 | 決まったツールのシートを使用し、アセスや保護者への聞き取りシートも使用している。どの職員も見れるようなツールを使用。 | アセスメントのツールの見直しや改善なども検討にいれ現場が使いやすいような工夫をする。 |
| | 16 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 7 | 1 | 全ての利用者が5領域を踏まえて、支援内容を作成している。個別での支援も適宜実施している。保護者にも良いことで連絡したりしている。 | 計画を職員や保護者等に話、説明をする際、どこの支援かわかりやすいような伝え方、表示の仕方を意識する。 |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 6 | 2 | 基本、担当を中心に情報の聞き取りや立案を行っている。専門職の勤務の日なども調整し、プログラムを作成している。 | マンネリ化しないような設定をあえて取り入れるプログラムができる人を増やしていく。 |

| | | | | | | |
|--------------|---|--|---|--|--|---|
| 供 | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 8 | | プログラミングの導入、運動教室での運動、おでかけ、児発・放デイの交流など、人数や状況によって工夫をしながら活動している。 | まずは、月に1回などいつも違うプログラムをするなど設定を考えて実行する。アイデアを募ったり、思いついたらやってみること |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。 | 7 | 1 | その日の調子、人数なども考慮しながら作成、支援を行っている。教室を区切って個別も行っている。 | 実際に記録、文字にしてわかりやすいようにして分析する。 |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 8 | | プログラム担当、送迎前後、など朝礼時にはもちろん、都度、確認の意味も含め、声掛けを行っている。 | 全体、グループ、個別になど支援の担当と確認体制をより強化するような設定をする。 |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 7 | 1 | 終礼時にはもちろんのこと、担当も日々、交替しながら振り返りも行っている。 | 終礼の担当を毎日、交替する。意見を1人1回は必ず言うなどの取り組みを工夫する。 |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 7 | 1 | ノートやPC、デイロボなどそれぞれの得意分野を活かしながら記録し、支援の改善につなげている。 | 記録の用紙自体も取りやすいように改善したり見直したりする。ヒヤリハットももう少し活用する。 |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 8 | | 相談支援のモニタリングも活用しながら定期的にモニタリングを行っている。 | 児童担当を決めるなどして責任感をより持たせるなど業務の工夫をする。 |
| 関係機関や保護者との連携 | 24 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 8 | | 基本は児発管が行い、状況に応じて担当の現場職員も行っている。 | 児童担当を決めて、その担当にも参加してもらうなどして理解者を増やす。 |
| | 25 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 8 | | 園や学校など情報共有、月に1回以上の連絡会などを行っている。市の事業所の職員が参加したりして研修も行っている。 | 連絡会の参加も交替しながらなど自事業所だけでなく相手からも連携しやすいようにする。 |
| | 26 | 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 8 | | | |
| | 27 | 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 7 | 1 | 子どもの情報というより事業所でやっている支援の状況などを情報提供している。 | 引き続き、丁寧に説明を行っていく。話しやすい質問をするなど工夫する。 |
| | 28 | (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。 | | | | |
| | 29 | 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。 | | | | |
| | 30 | (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。 | | | | |
| | 31 | (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。 | 7 | 1 | 中核を担うセンターの担当者を中心に助言やアドバイス等をいただいている。 | 引き続き連携を取りつつ、助言しやすくするためにこちらから連絡をとる回数を増やす。 |
| | 32 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。 | 3 | 5 | 公園など、市外にも積極的に出かけている。地域の行事等も積極的に参加している。 | 活動に機会を平日にも目を向けられるよう取り組みを工夫する。 |
| | 33 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 6 | 2 | デイロボと直接のお話を合わせて日々、共通理解をしている。公式LINEの活用もしている。 | デイロボをもっと活用していただけるように声掛けを工夫する。送迎の時の話をもっと工夫する。 |
| 34 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 4 | 4 | 全員ではないが、更新の機会など両親が来られた際は、行っている。 | 助言の質も上げるとともに、ペアトレの機会を月に1回など設定をして取り組む。 | |
| 35 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 8 | | 契約の際に、また、児発から放デイの利用につながる際には、アセスの際と契約の時の2度は説明をしている。 | 引き続き、丁寧に説明を行っていく。話しやすい質問をするなど工夫する。 | |
| 36 | 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 6 | 1 | 事前に聞き取りシートなども配布をし、前もって聞き取りも行いながら計画につなげている。 | 引き続き行うとともに、実施後の確認の体制を強化して質をあげる。 | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|---|---|---|--|
| 保護者への説明等 | 37 | 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。 | 7 | | 必ず、保護者にご来所いただき説明、保護者からの同意を得ている。 | 保護者は基本的に母親が来所する機会が多いので父親の方にもわかるように説明を行っている。 |
| | 38 | 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 7 | 1 | 保護者の必要に応じて、機会を設けて助言をしている。次に保護者が行動がとりやすいような伝え方を意識している。 | より相談しやすいように職員からの声掛けを増やしていく。 |
| | 39 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 5 | 3 | 保護者にも個別で促したり、父親にも話し合いに出てもらったりしている。 | 毎年、必ず会の時期を決めるなどして設定を工夫する。 |
| | 40 | こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 8 | | すぐに話し合い、確認表などの作成をするなどして体制の整備を行っている。 | 連絡体制、相談の体制を強化する。規模別になるので役割分担も行う。 |
| | 41 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | 7 | 1 | デイロボをや公式LINEを中心に活用し活動の概要や行事など発信している。インスタグラムも始めた。 | デイロボの活用をもっと深める。また、簡略化なども検討。インスタを開設したので活用する。 |
| | 42 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 8 | | 情報の漏れはない。教室の配置なども工夫し留意している。現場の資料なども名前の部分を黒くするなど対策をしている。 | 引き続き情報の取り扱いに留意する。また、教室に掲示物や連絡物など細かい点にもさらに目を向けて取り決めに強化する。 |
| | 43 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 8 | | 言葉遣いを注意しながら伝達している。学校、保護者、相談支援などそれぞれの立場を考慮し伝達をしている。 | LINE、文面、直接話すなど内容をしっかり分けて伝達をより強化する。 |
| | 44 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 5 | 3 | 同じ敷地内にも店舗があるので、気を使いながら事業運営をしている。 | 挨拶の意識をさらにする。清掃活動など、自分たちからの動きを増やす。 |
| 非常時等の対応 | 45 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 5 | 3 | 事務所に職員がいつでも確認できるようにファイリングしている。年に1回は訓練を実施している。 | マニュアルの周知の仕方を見直し、どの職員もすぐにわかるように工夫をする。 |
| | 46 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 4 | 4 | 定期的に避難訓練を実施している。散歩などする際に危険な箇所など実際に職員がお話したりしている。 | 天気や気候によってプログラム以外でもお話ししたり子どもたちに周知したりして自分で避難の意識を持ってもらう。 |
| | 47 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | 8 | | アセスメントの際に必ず確認している。支援計画の更新の際にも再度、確認をしている。 | ファイルだけでなく、ポイントを考慮して表示するなど誰でもわかりやすい工夫を増やす。 |
| | 48 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 8 | | それぞれアレルギーの対応について指示書プラス保護者にも確認をとって対応している。 | 確認、プラス再確認の体制を強化する。最低でも年に1回は必ず再確認をする。 |
| | 49 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 6 | 2 | 年1回は研修や訓練等を行っている。職員が研修に参加して。それを現場職員に周知している。 | 新入社員などにも入社してすぐ研修するなど確実な体制を整えて支援につなげる。 |
| | 50 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 7 | 1 | 怪我や病気など連絡体制や対応について話をして周知している。 | 定期的にお便りなどの作成して定期的にお知らせするなど周知を強化する。 |
| | 51 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 7 | 1 | 所定の書式にて作成し、検討後、周知できるようにファイリングしている。その日いなかった職員にも確認を促している。 | 誰でもヒヤリハットを書けるように取り組みの意識を強化する。 |
| | 52 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 8 | | 年に1回は、研修に参加したり動画を見たりして再確認している。また、いつでも見れるようにしている。 | 研修の参加者を毎年、違う人に参加してもらうなどして意識を広める。 |
| 53 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。 | 7 | 1 | 必要なお子様には、事前に保護者とも話し合い、再度、確認を含めて計画の際に説明、了解を得ている。 | 虐待防止と合わせて、安心できる環境の設定をする。 | |